



山元町役場とふれあい産業祭の会場。復興工事を請け負う業者の重機から撮影。

東日本大震災の甚大な被害を受けた宮城県。太平洋に面した山元町では、津波や地震により635名の方が亡くなり、3,302棟もの家屋が半壊以上の被害を受けました。昨年8月以降、災害公営住宅への入居も順次始まっていますが、現在でも多くの方が仮設住宅で暮らしています。

震災によって生じた土地や住宅、金銭に関する問題など、直面する多様な問題の解決を支援するため、法テラスは、宮城県内では南三陸、東松島、山元の3か所に出張所を設置しています。

去る11月23日、地域の方が毎年楽しみにしている「山元町ふれあい産業祭」に参加するため、山元町を訪れました。

### 朝8:00-

仙台発浜吉田駅行のJR常磐線電車に乗り、広報活動を行う祭りの会場を目指します。三連休の中日のこの日、車内は旅行客や学生のグループで半分ほど埋まっており、あちらこちらから楽しそうな声が聞こえてきます。

震災からもうすぐ4年。すっかり元通りになったとは言えませんが、街が再建されていく様子が少しずつ見えるようになってきました。

駅舎や線路が津波の被害を受け現在も不通となっている、会場の最寄駅である山下駅。常磐線は今年5月に内陸移設工事が始まり、平成29年春の開通を目指しています。

### 午前9:00-

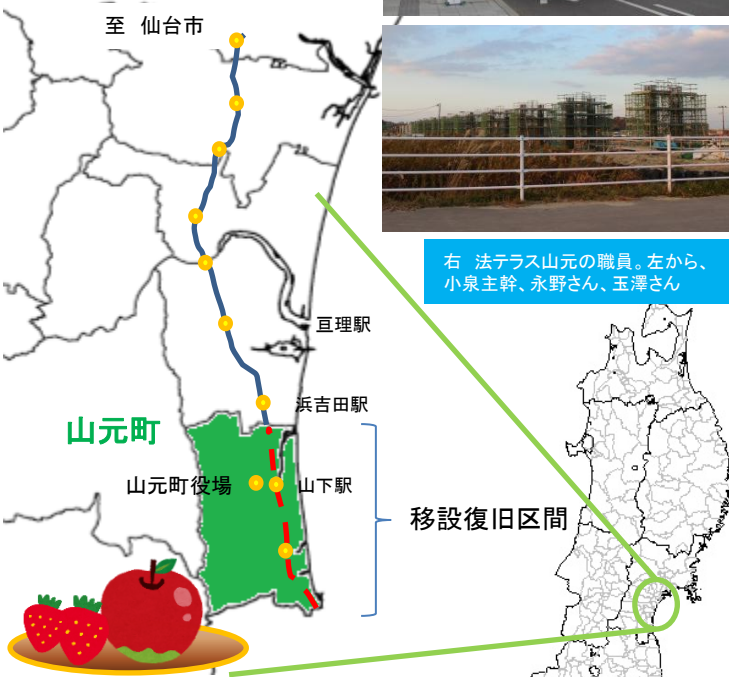
会場に到着しました。開始時間の前にもかかわらず、すでに賑わいを見せています。地元名産のホッキ貝の試食には長い列ができ、地元中学生はりんごジュースが入ったコップを持ち、試飲しませんか？と声を張り上げています。

法テラスのブースでは、ティッシュやボールペンを配る広報活動をするため、3人の職員があわただしく準備をしていました。

上 常磐線亘理駅に停車中の代行バス。不通となっている駅と駅を結んで運行している。  
下 再建工事が始まった線路の高架。街の再建と一体となって工事が進められている。



右 法テラス山元の職員。左から、小泉主幹、永野さん、玉澤さん





# 心をひとつに！ふれあい産業祭

-冬空に全国からの応援の声が響く-



## 午前9:30-

まわりを見渡すと、宮城県だけでなく、全国各地の地名が書かれた旗がはためいています。震災前に山元町役場の職員だった小泉主幹が教えてくれました。現在、山元町役場の職員270人のうち100人が全国から応援でやってきた職員であり、震災後、その職員たちが地元のブースを出したとのこと。今では、色々なご当地グルメを一度に楽しめる、と地元の方も喜んでいるそうです。

新鮮な食べ物を楽しみに毎年参加しているという高齢の男性にお話を聞くことができました。海岸から200メートルのところに住んでいたというその男性は「住んでいたところは災害危険区域になってしまったので今は仮設住宅に住んでいます。いつになったら仮設を出られるのか…」と、晴れた空を見上げて笑って話します。

また、一人で来たという女性は、「今までは夫と来ていた。震災で夫と息子が亡くなり、嫁と孫と仮設で暮らしている。仮設の友達と来ようとも思っただけど、気を遣っちゃうから…」と話してくれました。最後に、「法テラスに相続についての相談をしたの。誰に聞いたらいいかわからなくて。」と耳打ちしてくれました。



- 上 復興工事を請け負う会社が作成した復興応援グッズ。収益は全額山元町に寄付しているという。
- 中 名物「はらこめし」。お店によってイクラの食感が違うという。
- 下 名産ホッキ貝。震災後、中断していた出荷を、昨年冬再開した。



左 トンネルや橋の建設に使う重機。お祭りでは、子どもをのせるイベントが。筆者も乗せてもらい町を一望した。  
右 幼稚園児による踊りを見守る方々。今年の祭りのテーマは、「今年のテーマは「いざ出陣！復興と未来へつながる道へ」子ども達の元気な声が響き渡る。」



# 認知度75%の法テラス山元

-町を歩き、ひろく深くつながる-

午後2:30-

平成23年12月1日に山元町役場の一角に開所した法テラス山元。被災した方の悩みを少しでも減らそうと、日々奮闘している3人の職員に話を聞きました。

平成26年4月から新たな仲間になった、永野裕子(ながのゆうこ)さん。互理駅構内の売店で働いていたところ、法テラスのジャンパーを着た小泉仁(こいずみひとし)主幹がたびたび駅を訪れ、ポスターを貼ったり駅長と話しているのを見て、法テラスが気になっていたといいます。

自身も被災し、2週間ほど電気やガスが止まった自宅で過ごしました。被災した店の今後に関して悩んでいた頃、小泉主幹に話しかけ、法テラスの職員になりました。

今、高齢者が抱える問題を聞き取り、安心してもらえるようどう導くかを課題にしています。「『箸の一本まで流され、生きる基盤を失って…』『夫の死後、夫が私の名義で借金をしていたことが発覚しました…』」などそれぞれに悩みがあります。多くの方に法テラスを知ってもらいたい、たどり着いた人には、来た時よりもいい顔で帰ってもらいたい、常にそれを意識しています。』



上 仮設住宅一軒一軒に毎月ポスティングしている「法テラス号が行く」。をもつ永野さん  
下 玉澤さん自作の迷路。進むと浮かんでくる「てらす」の文字

そんな永野さんの目標は、震災前に法テラスのサポートダイヤルに勤務していた玉澤健(たまざわたけし)さんのような利用者との接し方を身につけることです。

玉澤さんは言います。「災害公営住宅や新しい地へ半数くらいの世帯が引っ越し、今では仮設住宅の入居者はだいぶ減りました。ただ、経済的に余裕がなく、仮設住宅を出られない人もいます。また、住んでいた土地が津波の被害に遭ったある男性は、土地を買い上げてもらうためには手続きをしなければいけないことは分かっていたけど、方法が分からない故、役場に足が向かず、時間だけが経過してしまっただけです。法的支援で解決できる問題を抱える人はたくさんいます。これからも丁寧に話を聞き、必要としている支援につなげたいと思います。」

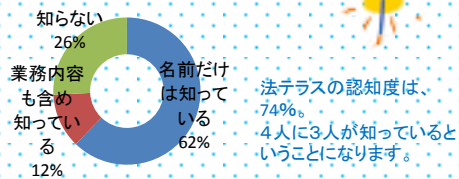
この日、小泉主幹に町内を案内してもらっている間、たくさんの人に声をかけられました。「開所から3年、相談内容の約半数が相続、離婚、債務についてです。どれも人に相談しづらい話だから、話しやすい関係になれるように心がけています。自宅も半壊したけど、もっと大変な想いをしている人がいる。これからも“Mr.法テラス山元”として動き続けます。」



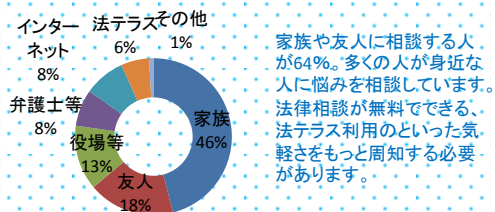
広報グッズとして配布したばんそうこう。「使ってね」と言うだけでなく、自ら貼って見せる。「わかりやすいでしょ」と小泉主幹。

## 会場で実施したアンケートの結果 (回答295人)

### Q1 法テラス山元を知っていますか？



### Q2 誰に悩みを相談しますか？



アンケートにご協力いただきありがとうございました。



弁護士や各種専門家と無料で相談することができます。詳しくは、お気軽にお問合せください。

電話 0503383-0213  
火曜日 建築士 司法書士 税理士  
金曜日 行政書士 社会福祉士  
社会保険労務士 土地家屋調査士  
木曜日 女性相談 (第4木曜日)